

航空機搭載レーザプロファイラがとらえた岩手山（2）

データ処理：東京理科大学・国土情報工学研究会

データ収集：アジア航測（株）

前掲のオルソフォト画像と DSM を重ね合わせて 3 次元表示（鳥瞰図）してみました。御苗代湖、大地獄谷、黒倉山（標高 1,572m）の位置関係がよく判ります。裸地の状態や樹木の繁茂状況、斜面の崩壊状況等、地表面の状態が細部にわたって判読できます。3 次元動画表示等の可視化手段を取り入れれば、より多くの情報を得ることができるはずです。前号までに紹介した都市域の分析だけでなく、山岳域における地形や地表面の分析、斜面崩壊地の分析等、レーザプロファイラデータ（LP データ）の活用が広がるものと期待できます。なお、航空機搭載レーザプロファイラの観測原理等の詳細は、以下の URL を参照して下さい。

74号、75号のLPデータ（前号）について：朝日航洋（株）：http://www.aeroasahi.co.jp/spatial/gizyutu/3d_01.html

